

平成 23 年度物部川清流保全推進協議会総会 議事録

◆日 時 平成 23 年 7 月 15 日（金）10：00～11：55

◆場 所 のいちふれあいセンター 2階研修室（香南市野市町西野 534-1）

司会（事務局） 定刻となりました。依光委員からは少し遅れるとのご連絡をいただいておりますので、ただいまから会議を開催させていただきます。

まずはじめに、環境共生課長の小松からご挨拶を申し上げます。

小松環境共生課長 本日は委員の皆様におかれましては、ご多用中のところ、平成 23 年度物部川清流保全推進協議会にご出席いただきましてありがとうございます。高知県林業振興・環境部環境共生課長の小松でございます。開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

県は平成 20 年 7 月に「物部川清流保全計画」を策定し、平成 21 年の 4 月に、物部川流域住民、団体、行政等が連携して、計画を具体的に推進していくために本協議会を立ちあげたところでございます。

昨年度からは、直面する課題に対応していくために重点的に取り組んでいくテーマを決めて、それぞれのテーマごとのワーキンググループにおいて検討を深めていただいたところです。

本日は、これまでのワーキンググループで協議してきた内容を、ご報告させていただきますとともに、今年度の取り組み方針について、本日の総会でご承認いただきたいと思いますと考えております。

現在の物部川は、昔と比べると川で遊ぶ子どもたちが減少していることや、本流の水量が少なくなってきたり、濁水の影響が出やすくなっているなど、様々な課題がありますが、流域が一つとなって課題を解決し、清流物部川を後世に引き継いでいくために、本日ご出席の皆様の活発な議論をお願いいたします。

司会（事務局） （資料確認、出席者紹介）（依光委員、到着）

それでは、以降の進行を大年会長をお願いいたします。

議長（大年会長） さっそく議事に沿って会議を進めます。まずはじめに、議題 1、平成 22 年度の実績について、事務局より説明をお願いします。

事務局 （「議題 1 平成 22 年度の実績について」を配布資料 2 ページ、3 ページに沿って説明した。）

議長 この件について、質疑をお受けしたいと思いますが、何かございませんでしょうか。

流域の団体において、活動量は増えているのでしょうか。

事務局

飛躍的に増えているとまでは言えませんが、継続的な活動となっています。協議会のWGの活動は、何かひとつでも前に進んでいるという実感の持てる取組としたいですし、WGの活動がいずれ形になればと考えています。

議長

一斉清掃が多く行われていますが、ゴミの量に関するデータはありますか。収集したゴミの量を指標としてはどうでしょうか。

事務局

ゴミ収集量のデータは持ち合わせていませんが、ごみのない物部川をつくる会が主催する清掃行事ではゴミ拾いの後でゴミを広げて分別をしているので、データがあるかもしれません。後日照会します。

野仲委員

7月10日に国交省と県土木事務所が主催した河川愛護月間一斉清掃のデータは提供できます。

議長

取組に関する定量的なデータがあると成果がわかりやすいと思います。

石川委員

農業濁水の濁度調査の結果を広報に活かすということですが、広報の効果はどうでしたか。

議長

調査結果のまとめは次回のWGで行うことになっています。

他にご質問はございませんでしょうか。

ただいまの平成22年度の取組の成果については、皆様ご了解いただけたということによろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは引き続いて、平成23年度の取組方針について、事務局より説明をお願いします。

事務局

(「議題2 平成23年度の取組方針について」を配布資料7ページに沿って説明した。)

議長

この件について質疑をお受けしたいと思います。何かございませんでしょうか。

依光委員

濁水対策を進めるWGでは代掻き濁水に限定して検討していますが、濁水源としての山の状況はますます悪化しているにも関わらず、山の問題は濁水対策を進めるWGでは検討を行わないで、山の保水力を高めるWGのみで検討を行うとい

うことでしょうか。

田村委員（代理）
大野副部長 森林の問題やダムの問題などの本質的な課題については県の河川課が所管する濁水対策検討会においてハード対策を検討しており、当協議会での議論とは分けて考えたいところです。

依光委員 ハード対策をしているというのが、今の山の現状からは、ハード対策の効果が実感できません。

議長 濁水問題は山腹崩壊やダム等様々な問題が絡んでいるが、WGで実行する取組としては代掻き濁水対策にテーマを絞ったということですね。保水力ということを広義に捉えると依光委員のご指摘のとおりだと思います。山の保水力を高めるWGについては、河川課の濁水対策検討会との住み分けが曖昧なためにWGの姿が見えづらくなっているの、県河川課との調整を行ったうえで、依光委員のご意見も守備範囲に入れたWGを立ち上げてはどうでしょうか。

岩神委員 濁水問題は、物部川清流保全計画の大きな課題のひとつです。濁水対策を進めるWGでは手っ取り早い効果を考えて代掻き濁水対策にテーマを絞ったのですが、本当に大事なのは山の問題です。県の河川課が所管する濁水対策検討会で検討しているとおっしゃいますが、河川課の検討会の内容については今までも含めてこの協議会で報告を受けたことはありません。ハード対策をいつまでにやるとかいった明確なアクションプランを出してこそ、川の清流保全計画ともリンクできるのです。河川課や公営企業局や国の取組状況や、物部川から受ける恩恵や利害を、県民や議員に知らしめていくことのできる、情報提供のきっかけになる協議会でありたいと考えています。

議長 事務局は河川課と調整して住み分けの問題を整理していただき、ぜひ4つ全てのWGを立ち上げてほしいと思います。住み分けを考えるときに守備範囲は共通でもWGのテーマは別々に絞るということでもいいとは思いますが。

それでは、平成23年度の取組方針については、ご承認いただくということよろしいでしょうか。

（異議なし）

では最後のその他の議題に移りたいと思います。はじめに申し上げますが、今日は総会ですので、委員の皆様から一言ずつ、会の進め方やご意見などどのようなことでも構いませんのでご発言をお願いしますのでお心積もりをお願いします。

事務局から何かありますか。

事務局 資料9 ページに、高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金に関するチラシを掲載しています。資料は1次募集のときのものですが、本日より2次募集が始まっております。この補助事業は清流保全計画の推進のために利用できます。市町村が事業主体の場合は補助率1/2ですが、NPO等が事業主体の場合は50万円以下は定額補助金となっています。ぜひ活用してください。

依光委員 この補助金では、借上げバス代は補助対象となりますか。

事務局 担当課に確認のうえ、後日改めてお返事します。

議長 それでは、各委員お一人ずつ、ご発言をお願いします。

岩神委員 濁水問題に関しては、先ほどの私の発言のとおりです。
また、WGの活動の成果として、何がどう変わったかを明らかにしていくことも大切なので、そういう取組を進めていただきたいと思います。

議長 成果を明らかにすることは、取り組む側の励みにもつながります。ゴミの量についてもそうですが、定量的なデータをぜひ把握してください。

野仲委員 協議会の4つのテーマそれぞれに原因者が存在します。ゴミ問題であれば住民、山の問題は山の管理者、濁水問題は農林業関係者やダム管理者、環境学習なら教育関係者や住民などでしょうか、それぞれの原因者に訴えていかなければいけません。特に、ゴミや環境学習のことについては多くの人々を巻き込みながら、参加者を増やしていくような取組が重要だと思います。国交省の行う一斉清掃ではゴミの量と参加者数を把握していますので、定量的なデータとして活用してください。
また、水生生物調査などは国でも県でも行っていますが、互いに連携できないのでしょうか。何か事業をやると費用がかかるので、連携すれば費用の効率化が図れると思います。

議長 連携は、まさにWGにおける情報共有のねらいとするところです。

斎藤委員 山の保水力に関わる問題については、三嶺系の自然環境の問題と林業振興の問題が存在します。自然環境の観点からは、ニホンジカ対策としてシカ防護ネット張りや、単木毎のラス巻きなどの活動について、ボランティアと連携した取組のほか、さらに踏み込んだ頭数調整の取組も検討中です。一方、林業振興の面からは、材価が厳しいなかにあって間伐が不十分な現状がありますので、高知県が進めている「森の工場」など団地化による間伐推進や、森林・林業再生プランに基

づき、コストを下げ木を切り搬出して利益を所有者に還元する仕組みを作って間伐を進めることにより保水力を高めることに取組んでまいります。

橋詰委員（代理）
西山課長

南国市は物部川の下流域にあります。市民レベルで見たときに物部川の恩恵を意識しているかということについて、そのことをいかに市民に啓発していくかが行政としての課題だと考えています。一斉清掃の参加者などを見て市長が言っていますのは、一般の参加者が少ないということです。一般の参加者を増やすため、行政としても周知活動が必要だと考えています。

仙頭委員（代理）
光明院課長

行政には数値化された目標を持った取組が問われているので、参加者数やゴミの量など一定の目標を明確に示したうえで、その具体化に向けた取組を大きな視点で考えなければならないと考えます。取組の励みにもなる目標の設定が必要ではないでしょうか。

門脇委員

香美市は源流域から中流域を占めておりまして、物部川への関心は高く、源流域の厳しい現状が本当に理解されているのか、机上の話になっているのではないかという思いを持っています。実際に山をみるとこれからも崩壊は進むだろうし水質もよくなるまいと感ずる、そのくらい源流域は厳しい状態にあります。少しの雨でも今年は大崩落が既に2ヶ所もありました。復旧には2億円を下らない費用がかかるので、5～6千万円で土砂を取り除くくらいのことしかできないという状況もあります。べふ峡のもみじ茶屋の奥でも山崩れがあつて、峰越えの林道は今年使えません。ヒカリ石の上のあたりも植生がすっかり変わってしまって、以前の景色は見る影もありません。ゴミを拾うことも確かに大事ですが、源流域は疲弊の一方にあります。国策も大きく関連していて、国の森林・林業再生プランでは今回、切捨て間伐への補助はなくなるとのことですが、そうなれば今後の間伐は進まないと思っています。搬出間伐でなければ補助がないということになれば木の切り手はいなくなり、山は荒れて、高齢者ばかりの集落をこの先どうやって守っていけばよいか、大変心配をしています。

田村委員（代理）
大野副部長

会の進め方につきましては、本日のご意見を踏まえてWGのやり方を検討したいと考えます。次回以降、定量的なデータをお示しながら情報共有を図ってまいります。

濁水対策検討会との関係ではハード対策を実感できないというご意見もありましたが、治山林道対策も予防はできなくなって崩壊への対処で手一杯という現状もあります。

また、国の制度改正に関しては昨年12月ごろから以降、厳しいご指摘をいただいているところです。県としましても、国に対してしっかりと政策提案をしていきたいと考えています。

依光委員	<p>三嶺の現状を見てください。シカの食害の現状はより一層深刻化しています。(写真・資料の提示あり。)</p>
	<p>三嶺の森をまもるみんなの会ではネット張りを次回は 7/16 に行う予定をしていますが、国や市の職員は参加してくれているのに県の参加がないのが残念です。</p>
石川委員	<p>シカの駆除に関連して、高知県側で発砲してもシカが徳島県に逃げてしまったらそれ以降は発砲できないという話があるそうなので、徳島県側と連携して取り組むことができないでしょうか。</p>
田村委員 (代理) 大野副部長	<p>徳島県と連携した取組は既に始まっています。</p>
石川委員	<p>環境学習については、環境活動支援センターえこらぼが昨年、県内小学校にアンケートを行って学校側のニーズを集約したデータが揃っています。えこらぼは環境学習のプログラム作りも行っていますので、WGに協力できると思います。</p> <p>また、濁水の関連で、県公営企業局がHPで公開している釜ヶ淵の濁度データが過去2ヵ月分しか公開されていないために前年同期や前々年同期と比較しづらいので、もっと過去に遡ってHPから見るできるようになればいいのにと感じています。</p>
議長	<p>今後もWGにはできるだけ参加するようにします。</p> <p>また、活動の成果が見えることや目標の明確化は重要ですが、現状ではそれぞれのデータの在り処がわかりづらいので、この協議会が目指すものを示す、物理的なデータの公表の状況を事務局で整理してください。</p>
渡邊副会長	<p>私は学生たちと接するなかで「身の回りが環境だ」と話しています。友人関係も環境であり、自らを取り巻く自然も環境であり、地域の方々やコミュニティも環境です。地域の方々ともっと知り合いたいという思いから授業の中で商店街振興のプロジェクトを立ち上げたりもしています。また、川遊びの経験や鮎の味を知ることを通して、そのことが魅力となって物部川が学生自らの大事な場所になることを願っています。</p> <p>また、先日、物部川でCommonMP（水理水文解析ソフトウェア共通プラットフォーム）の適用ができないかという問い合わせを受けました。物部川の場合は既に「仮説」があるので、このプラットフォームを使えば定量的データを用いて、それを検証できるようになりますし、議論のプロセスの可視化、公開が可能になります。財政難のなかで行政の枠を越えて事業を立案し執行していくことが、物部川では可能だと思います。山の保水力の問題や濁水の問題はいずれも喫緊の課題であり、そのことに対してもこのプラットフォームは有効ではないでしょうか。</p>

山崎委員

本日の会議を通じて、物部川の現状を知らされる思いがいたしております。

私の専門である水質汚濁・排水処理の分野からコメントをさせていただきますと、水質汚濁の原因は上流と下流とではそれぞれ原因が違って、汚濁の原因が違えば対策も異なります。上流では山腹崩壊等自然系の要因があり、下流に行くにつれて生活排水も汚濁の要因となってきました、さらに中下流域では生活排水に加えて産業排水も汚濁負荷として加わってきますが、企業のなかには工場排水が生態系や自然環境に及ぼす影響について興味、関心を持っている企業もあるので、そういった企業をターゲットにした取組も有効だと思います。

議長

物部川の行事にはぜひ、高知高専の学生さんにも参加を呼びかけてください。

また、渡邊副会長から提起のあったCommonMPについては、河川課との調整や運用面の検証などを詰めてから、この協議会の場で改めて検討することによってよろしいでしょうか。

(異議なし)

その他、ご意見などありますか。

岩神委員

アクアリブルネットワークでは、8月1日に流域の子どもたちを対象として環境学習ツアーを開催します。昨年は下流域を中心としたツアーでしたので、今年は上流編として物部の森で学習した後、日ノ御子で川遊びをすることにしています。日ノ御子での川遊びは2年連続となりますがこれには理由があって、下流部でも川遊びをしたいという思いはあるのですが、工事等の影響によって遊びの場として利用できる場所がないというのが実際です。時間はかかっても、遊びの場として利用できる場所づくりをぜひお願いします。

また、この協議会もこの協議会以外の会も共通するが、例えば水の量の問題であればその問題に関わる業種の方々に、会の取組が果たして浸透しているのかという不安を感じています。21世紀の森と水の会の活動のようになど民間レベルで活動があるからそれでいいという考え方もありますが、物部川の問題はもはや森林保全の考えだけでは対応できないところまできていて、これからは国土保全の発想もしていかなければならないと思っています。知らせてあげなければいけない人には行政が直接訴えるということもしていかなければならないと思います。

議長

物部川の清流保全に関わる場所をこの協議会の守備範囲として取組を進めていくということですが、物部川に関わる課題については、この協議会と県河川課所管の濁水対策検討会とのすみわけを事務局で整理してください。

以上で、本日の議事は全て終了しました。以降の進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。

小松環境共生課

閉会にあたり、ご挨拶を申し上げます。本日は長時間にわたって活発なご議論

長

をいただき、ありがとうございました。ご指摘のあった事項につきましては持ち帰りまして事務局で整理のうえ、改めてご提示いたします。委員の皆様におかれましては今後とも物部川の清流保全に関しましてご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

以上